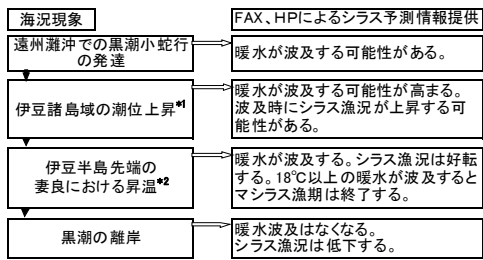


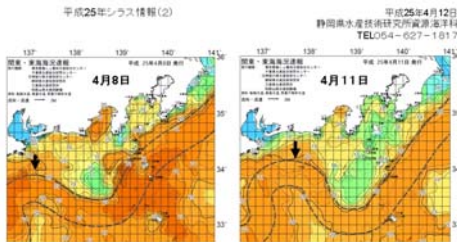
静岡県試験研究 10大トピックス⑤

タイトル	シラスはいつ、どこにいる？シラス漁場探索指針の策定	研究期間	平成 23～25 年度
研究所 所 属	水産技術研究所	補職名	科長 長谷川雅俊
	資源海洋科	研究者名	主査 鈴木朋和
	普及総括班	問合せ先	054-627-1817
研 究 概 要	<p>【背景・ねらい】</p> <p>シラスは本県の重要な漁業対象種で、毎年 40～50 億円の漁業生産額を上げており、平成 23 年の漁業生産額は、全国第 1 位であった。生産物を利用した加工業も盛んで、しらす干しは本県の特産物となっている。</p> <p>しかし、シラス漁業は、広い海上を走り回って漁場を探すため、燃油の消費が多く、近年の燃油の高騰により、漁業経営が圧迫されている。</p> <p>そこで、水産技術研究所は、漁業経営の効率化を目指し、漁業者がシラスの漁場や漁期の予測を効果的に行うための漁場探索指針の策定に取り組んだ。</p>		
	<p>【成果の内容・特徴】</p> <p>1 駿河湾及び遠州灘におけるシラス漁場の形成に影響を及ぼす要因を解析し、漁場形成の短期的な変動要因として、黒潮系暖水波及と台風等による大量の降雨を見出した。</p> <p>2 これらの変動要因から、シラスの漁場形成の時期や場所を予測するシラス漁場探索指針を策定し、平成 25 年度は、指針に基づいてシラスの漁況予測を行い、「シラス情報」として 12 報発行した。実際の漁獲状況と検証したところ、漁場形成予測に対する有効性は高かった。</p>		
	<p>3 指針の活用により、シラスの漁場形成時期・場所の短期的な予測が可能となり、シラス漁の空振りを防ぎ、また予期しない豊漁による値崩れも抑えることできる。燃油費の削減や価格維持の効果について試算を行ったところ、燃油費で 2 割程削減が見込めるなど、指針の活用による漁業の効率化と経営改善への効果が明らかになった。</p>		
	<p>【成果の活用・留意点】</p> <p>1 今後も、このシラス漁場探索指針に基づき随時シラス情報を発行する。情報はFAXで漁協に通知するとともに、水産技術研究所ホームページ (http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/05wait/5-5-12.html) に掲載し、情報を発信する。</p> <p>2 漁業者の集まる集会などで燃油削減等の利点を示し、漁場探索指針、シラス情報の周知・利用を促していく。</p>		



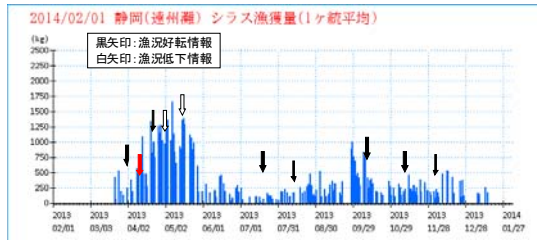
春季の暖水波及によるシラス漁況変化に対する漁場探索指針

- *1気圧補正した神津島、三宅島、石廊崎の潮位偏差上昇(特に神津島に注目し、極小値から20cm以上上昇で潮位上昇と判断する)
- *2妻良で過去24時間のうちに2℃以上の昇温、あるいは曇見定地水温が前日差1.1℃以上、または前々日差1.6℃以上、または前々々日差2.0℃以上の上昇



3月下旬から4月上旬の東海系暖水の静岡県沿岸への波及後、遠州灘ではシラスCPUEは上昇しましたが、駿河湾内では低く経過しています。駿河湾内にはシラスの加入は少なかったものと思われます。
 4月8日以降、駿河湾から遠州灘にかけて黒潮小蛇行が発達して東に動いています(上図、矢印)。今後、小蛇行の発達に伴い駿河湾内に東海系暖水が波及してくると考えられますが、それに伴う駿河湾内の漁況の好転に注目しています。

シラス情報第2報



平成25年におけるシラス情報発行のタイミングと漁況経過

- 上：遠州灘の1日1ヶ統当り漁獲量 (kg)
- 下：駿河湾の1日1ヶ統当り漁獲量 (kg)
- 黒矢印：漁況好転情報
- 赤矢印：シラス情報第2報(左)
- 白矢印：漁況低下情報

左上は「春季の暖水波及によるシラス漁況変化に対する漁場探索指針」。平成25年4月上旬に遠州灘沖で黒潮小蛇行が発達したので、探索指針に従い、左のシラス情報第2報を発行した。上の平成25年漁況経過の赤矢印が発行のタイミング。遠州灘、駿河湾海域ともその後漁況は好転した。